

感性豊かな保育者・対人援助職で活躍できる人材の育成



【1-b】 こども芸術学科 こども芸術コース カリキュラムマップ(2019年度)

人材育成目標(学科)	
<p>「こどもの未来」「これからの社会」を作るために、なぜ人は表現するのかという芸術の根源をたずね、人が成長する上で、芸術の果たす役割と可能性を探求します。こどもと関わりながらその存在価値を認め、芸術する心を通して、創造的な生き方のできる人、他者と支え合うことのできる人、社会に向けてアイデアを発信できる人を育てます。</p>	

科目名	授業種別	履修学年・学期					単位		テーマ	授業概要	到達目標	創造力				人間力							
		1	2	3	4	前期	必修	選択				探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力					
発達心理学	講義	1	2	3	4	前期	2	子どもの発達の諸相の理解	乳幼児期を中心に、発達の諸相について学ぶ。単に発達の変化の過程をなぞるのではなく、現象の発達の意義について検討し、考察を深める。なお、毎回授業の冒頭部分では、子どもや家庭、保育、福祉などに関する新聞記事を受講生に紹介してもらう。さらに授業後は毎回ミニ感想文を提出してもらう。	1.発達の諸相について関心を高めること。 2.子どもを発達的に捉えることの意義を理解すること。	50	100	0	0	0	0	50	100	0	0			
教育心理学	演習	1	2	3	4	後期	2	教育と子どもの心理との関連、教育現場における心理学的知見の応用について学ぶ。	教育心理学の背景となる幼児、児童及び生徒の発達について理解するとともに、教育心理学の代表的な理論や研究成果について、学校教育や保育実践との関連を中心に論じる。その上で、発達や学習の理解、教育効果の促進、障害や心理的問題への対応において教師に求められる知見と、それを踏まえた適切な支援のあり方について考察する。	1)教育心理学における基礎的な知見を説明することができる。 2)教育心理学の教育実践への応用について理解する。 3)教育現場における諸問題を教育心理学の視点から考察し、意見を示すことができる。	0	50	100	0	0	0	50	100	0	0			
保育原理	講義	1	2	3	4	前期	2	総合的な視点から、「保育」に対する考え方を学ぶ。また、子どもの発達とより良い保育の関係について理解する。	本授業は、保育、子ども、子どもが育つ環境について理解し、保育内容・方法の原理を学ぶ。また、実践に活かせる保育の計画について理解する。さらに保育の歴史の変遷について学んだ上で、保育の現状と課題について考察する。	多角的、総合的な視点から、保育の原理について積極的に学ぶ姿勢を持つて理解する。	40	80	40	80	0	0	20	40	0	0			
教職概論	講義	1	2	3	4	後期	2	これからの目指すべき教員のあり方	教員としての基本的な心構え、教職の意義、教員の役割と専門性、教員の活躍する場とその職務内容、教員の成長とそれを支える研修のあり方など目指すべき教員の姿とは何かを学ぶ。また講義だけではなく、内容について受講者間の意見や疑問を討論し、各々の内容について自身の考えを述べることもできるようにする。	教員の専門性とは何かを子ども、保護者、同僚、組織の視点から学び、目指すべき教員の姿を理解する。同時に子どもたちの教育に関わる者としての心構え、資質・能力について考え、自分自身を改めてとらえ直し、新しい自分を発見することを目標とする。	40	80	60	120	0	0	0	0	0	0			
初等教育原理	講義	1	2	3	4	前期	2	教育者としての子ども理解と初等教育の課題	教育の主体となる教育者の視点から、まず、ひろく教育的営為をどのように捉え、どのような見方ができるのかを多角的に考察する。次に教育者の立場から、教育を見直し、構築し、デザインする力とは、どのように考察されてきたかについて、原理的・思想的に検討する。さらに現行の教育制度・政策を支える教育思想やこれまでの歴史の変遷の中で捉えられてきた初等教育の理念・方法・歴史・制度等の課題を考察する。最後に、「創造力」と「人間力」とを本学の理念とする「7つの能力」(探究力、思考力、発想・構想力、表現力、行動力、継続力、コミュニケーション力)について自己評価し、次に繋げる課題を明確化できるようにする。	1.現代子どもをめぐる教育課題をとらえる教育者としての視点を構築出来るようになる。 2.近代公教育制度における初等教育の理念・制度・政策を理解し、批判検討できる視点を深める。	30	60	70	140	0	0	0	0	0	0			
音楽I	演習	1	2	3	4	前期	1	幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育現場での音楽的表現活動のピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。	0	0	30	30	30	30	10	10	0	0			
音楽II	演習	1	2	3	4	後期	1	幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンをを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。	0	0	30	30	30	30	10	10	0	0			
幼児体育	演習	1	2	3	4	前期	2	身体活動	「走る・跳ぶ・投げる」基本的な動きを基に、子供の身体機能や体力への影響を考え、運動の楽しさを学ぶ。	子供の身体機能や体力への影響を考えた上で、運動やレクリエーションゲームの導入・展開・実践ができることを目指す。	0	0	15	30	0	0	20	40	45	90	20	40	
マテリアルベーシックI	演習	1	2	3	4	前期	2	日常に溢れるモノを「素材」に変換する	身の回りにあるモノが持つ素質、特徴、機能などを、各自の身体感覚を最大限に活用し、触れ、調べ、理解する。また、それらのプロセスを通して、すべてのモノが「素材(材料として使えるモノ)」に変換される可能性を持つことを理解する。	・身の回りにあるものを工夫しながら扱う柔軟な発想力を身につける。 ・素材の特性を生かした制作を行うための構想力を養う。	20	40	0	0	20	40	20	40	20	40	0	20	40
マテリアルベーシックII	演習	1	2	3	4	前期	2	色彩の理論と配色、形を扱う基礎を学ぶ	あらゆる造形活動において必要不可欠な「色」や「形」という要素を、理論と実践の両面から学び、身につけていく。また、絵の具やクレヨン、鉛筆、パステルなどの身近な画材に対する知識と経験を深め、表現内容を具現化する力を養う。	・混色原理や色彩対比、配色方法を学び実践できるようになる。 ・形に対する理解を深め、使い分けができるようになる。	0	30	60	0	30	60	0	0	40	80	0	0	
マテリアルベーシックIII	演習	1	2	3	4	後期	2	「素材」から各自のテーマを見つけ、制作する	幅広い素材や技法に触れながら発想を豊かにし、主体性を持った制作を実践することで、自身のテーマと出会う経験を積む。制作を通して自身の持っている資質に気づき、他者や社会との関係性の中で自分なりの価値観、世界観を構築していく力につながる。	・素材や技法から発想を広げ、自身のテーマを探っていく。 ・他者に伝わる表現を意識できるようになり、材料や技法を使い分けられるようになる。	40	80	0	0	30	60	0	0	0	0	30	60	
マテリアルベーシックIV	演習	1	2	3	4	後期	2	造形的な発見の仕方を学ぶ	色や形を描く楽しさや、素材を扱う中での自己の感性の変化・気づきを丁寧に観察する。造形的な発見の仕方を学ぶことで、幼児の造形活動の中にも存在する「遊び」や「学び」の要素への理解が深まる。	・制作行為のプロセス(発想、構想、制作など)を体で覚える。 ・多様な素材へ経験が、保育実践での「造形」としても応用できる力になる。	0	0	50	100	50	100	0	0	0	0	0		
PC技法演習I	演習	1	2	3	4	前期	1	コンピュータの運用と表現	コンピュータの基礎技術と代表的なアプリケーションの仕組みを理解し、適切な利用法を身につける。また、これらの知識をふまえ、各自が主体的に立案制作を行えるようになることを目指し、Word、Powerpointを用いたプレゼンテーションや、Photoshop、Illustratorを用いた演習を行う。	デジタル機器を用い、各自の企画や作品を、提案または発表ができるようになる事。	0	40	40	20	20	40	40	0	0	0			
PC技法演習II	演習	1	2	3	4	後期	1	コンピュータの運用と表現	コンピュータの基礎技術と代表的なアプリケーションの仕組みを理解し、適切な利用法を身につける。また、これらの知識をふまえ、各自が主体的に立案制作を行えるようになることを目指し、Word、Powerpointを用いたプレゼンテーションや、Photoshop、Illustratorを用いた演習を行う。	デジタル機器を用い、各自の企画や作品を、提案または発表ができるようになる事。	0	40	40	20	20	40	40	0	0	0			
保育内容I(健康)	演習	1	2	3	4	前期	2	幼児の健康を目指した保育のあり方について考える。	幼児の心身の発達とその発達上の遅れや問題を中心に論じる。「からだのおかしさ」がもたらす様々な心理的問題を考えることで、幼児の健康をどのように維持、促進できるかを考える。さらに、幼児の怪我や事故の原因を理解し、安全指導の方法についても学習する。	1・幼児のこころとからだに関する問題を知る。 2・発達発達の仕組みについて理解する。 3・保育実践の方法について理解する。 4・幼児の健康を目指した保育のあり方について考える。	0	0	0	0	20	40	50	100	0	30	60		

科目名	授業種別	履修学年・学期					単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力	
		1	2	3	4	前期	必修	選択											
保育内容II(人間関係)	演習	1	2	3	4	前期	2		保育を通して人とのかかわる力の育成	授業は乳幼児期の人間関係の発達段階を理解する。特に「あそび」の役割と子どもの発達について学びを深める。また、保育者間の人間関係、保育者と保護者間の人間関係にも焦点を当てて保育者自身の人間関係について考察する。講義はテキストからの学びと、事例検討やグループ討議を用いて進める。	・子どもは様々なことを吸収しながら成長していく。特に乳幼児期からの人とのかわり方は、子どもの発達に大きな影響を及ぼす。本講義では乳幼児の人間関係の発達過程を理解するとともに、「あそび」を通じた人間関係のあり方と保育者の役割を理解する。	0	30	30	0	0	0	40	
保育内容IV(ことば)	演習	1	2	3	4	前期	2		こどものことばを育む	こどもたちがことばを獲得し、豊かな表現力を身につけていくためには、保育者自身の言語体験が重要になる。この授業では、まず、乳幼児がことばを獲得していき発達を道すじを適切に理解したうえで、それらを支援していくために必要な種々の児童文化財を用いた言葉の表現技術や方法について学ぶ。	他の領域との関連性を十分に踏まえたうえで、こどものもつことばの特性を理解する。絵本の選び方や読み方、紙芝居やおはなしの演じ方についても体験し、その技術を習得するとともに、こどもたちの豊かなことばの体験を支援する保育者の役割を理解することを目指す。	0	20	20	40	30	0	0	30
幼児理解	講義	1	2	3	4	後期	2		子どもの行動や子どもを取り巻く環境の意味、見方、かわり方、保育者の社会的役割について学ぶ	子どもの姿には様々なメッセージが込められている。子どもの言葉や行動からいかに子どもの理解に努めるかが、保育者のあるべき姿といえる。この授業では、子どもの姿をどのように理解していくかを主眼に据え、幼児教育の現場でみられる子どもを取り巻く諸問題とその解決に向けての方法を考える。	幼児理解に必要な保育者としての姿勢、方法について学ぶ。幼児理解を目的とする中では保護者支援の必要性が生じることから、カウンセリングマインドを学ぶ。地域の専門機関との連携を学ぶ。	30	40	0	0	0	0	30	
教育制度論(幼稚園)	講義	1	2	3	4	後期	2		我が国の教育制度の変遷、それぞれの改革の動向を学ぶ	教育を支える制度について、その果たしている機能や意味について考察することを通じて、教育に対して広い視野と深い洞察力をもって考えることができるようになることを目指す。とりわけ本講義では、近年の教育改革動向にも目を配りつつ、教育基本法、学校教育法をはじめ就学前教育を含めた学校教育制度の基本的な枠組みや、教育委員会制度など教育行政の基本原則に対する理解と考察を深めていく。	教育制度の歴史の変遷が理解できる。教育制度の機能や意味が理解できる。教育を考える際に多様な見方ができる。	50	50	0	0	0	0		
国語	講義	1	2	3	4	後期	2		幼稚園教諭として、幼児、あるいは保護者と接する際に、正しい日本語で豊かな内容の会話ができるよう、幅広い知識を吸収し、実践力を会得する	[前半]読みやすい日本語、敬語の知識、難解語の読みなどの国語常識、[後半]古典から現代文までの基本的な教材を読んだり、ディベートをしたりする。	幼稚園教諭として、幼児、あるいは保護者と接する際に、正しい日本語で豊かな内容の会話ができるよう、幅広い知識を吸収し、応用できるようにする。また、読み書きだけでなく、話す能力を身につけるために、ディベートを授業に取り入れるなど、観念的な知識よりも、実践力を会得することに主眼を置く。もちろん、幼稚園教諭採用試験合格対策としての知識や技術習得も目標の一つである。	0	20	30	50	0	0	0	
教育方法の理論と実践	講義	1	2	3	4	後期	2		学習者の発達実態に即した多様な学習指導法、授業を行う上で基礎的な技術や情報機器の活用の仕方について学ぶ	・実際の学習場面を視聴し、必要な教員の知識や技能にふれ、授業を成立させる指導法について考えることができるようにする。そして、指導の要素となる「言葉」「文字」「見とり」「発問」「評価」などについて具体的な授業場面を提示しながら有効な方法について考えることができるようにする。さらに教員として指導に必要な情報機器の扱いについても学ぶことができるようにする。	・学習者の発達実態に即した多様な学習指導法について具体的な学習場面を想定しながら活動することによって、学習指導法に係る基礎理論と知識・技能を身に付けることができるようにする。 ・板書や話し方、子どもの反応のとらえかたなど、授業を行う上で基礎的な技術や情報機器の活用の仕方などを身に付けることができるようにする。	0	50	50	0	0	0	0	
こども家庭福祉	講義		2	3	4	前期	2		子ども家庭福祉の歴史の経過と最前線	子ども家庭福祉の意義、制度や実施体系、歴史の変遷について理解する。子どもの権利擁護について理解を深め、児童虐待や子どもの貧困問題等、今日の子どもの家庭福祉を取り巻く現状を知り、今後の動向と展望について学ぶ。	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。	50	50						
こどもの保健	講義		2	3	4	前期	2		子どもの発育・発達の理解	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの身体的な発育・発達と健康・保健について理解する。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、子どもの疾病、感染予防等について、他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子ども身体的な発育・発達と健康・保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。	50	50						
カリキュラム論	講義		2	3	4	前期	2		保育の計画及び評価	保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について学び、全体的な計画とカリキュラムの作成について、その意義と方法を理解する。子どもの理解に基づく保育の過程(計画、実践、記録、省察、自己評価、改善)について、総合的に捉え、理解する。	1. 教育課程や保育課程が幼児の発達、成長にたいして持つ意義を理解する。 2. 教育課程、全体的な計画、指導計画を編成する際の基礎となる考え方を知る。 3. 具体的な指導案作成とその検討を行うことを通して、保育者として必要な実践力を高める。	50	50						
社会的養護 I	講義		2	3	4	前期	2		社会的養護の歴史的経過と最前線	社会的養護の意義、制度や実施体系、歴史の変遷について理解する。社会的養護の対象理解を深め、具体的な支援形態について学ぶ。子どもの権利擁護を踏まえた社会的養護における保育士の専門性、基本原理や倫理的責務について学ぶ。	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。	50	50						
社会的養護 II	演習		2	3	4	後期	2		社会的養護の基礎的理解	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。施設養護及び家庭養護の実践について理解する。計画、記録、相談援助の方法・技術、自己評価について理解する。子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。	1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 2. 施設養護及び家庭養護の実践について理解する。 3. 社会的養護における計画、記録、自己評価の実践について理解する。 4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。	50	50						
特別支援教育概論	演習		2	3	4	後期	2		特別な支援を必要とする幼児・児童の理解	保育所を含む児童福祉施設における障害児保育の理念や歴史の変遷、保育士の資質、能力についての理解を深める。障害児その他、特別な配慮を要する子どもの特性や心身発達等に応じた保育計画、支援計画について知り、家庭や関係機関との連携・協働の実践とその課題について学ぶ。	1. 特別の支援を必要とする幼児、児童の障害の特性及び心身の発達を理解する。 2. 特別の支援を必要とする幼児、児童に対する教育課程や支援の方法を理解する。 3. 障害はないが特別的教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。	50	50						
音楽III	演習		2	3	4	前期	1		幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。	50	50						
音楽IV	演習		2	3	4	後期	1		幼稚園教諭・保育士に必要な音楽的基礎技能の修得	保育の現場で必要とされる「弾く」と「歌う」をバランスよく習得できるレッスンを行います。楽譜の読み方など初歩の音楽理論を学びながら、各々のレベルに応じたピアノの個人レッスンと少数グループでの歌唱レッスンによって、音楽の基礎を身につけます。	保育の現場での音楽的表現活動の簡単なピアノ伴奏ができる。こどものうたの伴奏や弾き歌いができる。	50	50						
素材造形I	演習		2	3	4	前期	2		造形活動の構想と指導法 I	子どもの発達に関する知識や技術と、素材造形の経験を結びつけ、模擬保育を行う。また、学外の保育現場とも連携し、各自のアイデアを実際に発表する機会を持ち、ふりかえりを行い、保育実践力を高めていく。	・1回生で学んだ「素材」と「こども(保育・幼児教育)」を結びつけ実践することで、造形活動を構想する力を養う。 ・造形活動を実施する際の指導法を身につける。	0	30	30	20	0	0	20	
素材造形II	演習		2	3	4	前期	2		自然と素材	自然に触れる中で、見る・感じる・気づくことを促し、各自の発見から具体的な保育実践を構想する。またPCの活用や、プレゼンテーションの力を身につける。	・自然や自然物に対する理解を進め、保育の環境や状況に応じた素材の選択と、素材の特性を生かした運用法を身につける。 ・PC操作法の理解を進め、適切な運用とプレゼンテーション技術を習得する。	0	30	30	20	0	0	20	

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力			
						必修	選択													
素材造形Ⅲ	演習		2	3	4	後期	2	造形活動の構想と指導法Ⅱ	素材の応用的な活用、表現、造形活動への展開を探索し、保育計画を作成する。 学外の保育所等で、実際に実践を行い、ふりかえる。	・1回生で学んだ「素材」と「こども（保育・幼児教育）」を結びつけ実践することで、造形活動を構想する力を養う。 ・造形活動を実施する際の指導法を身につける。	0	0	40	60	40	80	20	40	0	0
素材造形Ⅳ	演習		2	3	4	後期	2	地域環境と素材	保育実践を念頭に入れ、地域の歴史を調べ、文化や伝統、地域性に触れる。 地域の生活に関係の深いさまざまな人とかわり、交流を持つ中から、各自の発見や気づきを育て、子どもへ向けて発表する。	・文献調査、フィールドワーク、インタビューなどの調査能力を身につける中で自主的な学習態度を形成する。 ・地域環境を生かした保育を構想する力を養う。	0	0	40	80	40	80	20	40	0	0
乳児保育Ⅰ	講義		2	3	4	前期	2	乳児保育の意義・目的	3歳未満児の保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解し、合わせて、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について学ぶ、発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制、職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	50	50								
乳児保育Ⅱ	演習		2	3	4	後期	2	乳児の発育・発達と理解と関わり	3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりを基本的な考え方について理解する。養護及び教育の一体性を踏まえ、生活や遊びと保育の方法、技術、環境や、必要な配慮の実践について具体的に理解する。これらを踏まえ、乳児保育計画の作成について、具体的に理解する。	1. 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりを基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。	50	50								
こどもの食と栄養	演習		2	3	4	前期	2	小児栄養の意義と基礎的理解	私たちが一生健康で豊かな生活を送るためには、バランスのとれた食習慣の確立が大変重要となってきます。一生のうちでも乳児期や幼児期は、最も成長、発達の盛んな時期であり、しかもこの時期からの正しい食習慣が将来の健康に良い影響を与えるといわれています。そのような大切な「食」についての理解を深めてもらい、しいは自分自身の食生活の確立にも役立ててもらいたいと思います。また、毎授業で保育士国家試験の過去問題に取り組みます。	保育の中で、子どもたちに「食事の大切さ」「食のおもしろさ」を伝えることができるようになる	20	20	30		30					
保育内容Ⅲ(環境)	演習		2	3	4	前期	2	子どもの知的好奇心や科学の芽を育てる環境	領域「環境」は、子どもが身近な環境に好奇心や探究心をもってかわり、意欲的に楽しみを発見し、集団の中でより力を発揮して過ごし、科学的な目を育てることが大切である。本授業では、幼児教育の基本である「環境を通して行う教育」の視点から、幼児教育を理解して教育実践に発展できる教育計画や環境構成の基礎知識や専門的な保育内容「環境」にかかわる技能の習得をめざす。	環境を通して行う教育の理解の上で、教育実践力を身につける	40	30						30		
保育内容総論	演習		2	3	4	前期	2	質の高い保育者養成を目指す、保育(幼児教育)の根底となる理念や子ども理解、さらに保育実践の在り方について学ぶ	保育所保育指針や幼稚園教育要領に基づいて、「子どもの健やかな育ち」の基礎となる「環境」を通して行う保育について理解を深め、子どもにどのような経験が大切か考える。また保育内容の構造と実践的理解について総合的に学習する。	子どもの発達段階に応じた保育内容や教育と保育に対する心構えについて自己形成することを到達目標とする。	40	30						30		
保育インターンシップ	演習		2	3	4	前期	2	体験的実習	本実習に先立つ体験的実習として、保育所、その他の児童福祉施設において観察実習、参加実習を行い、その機関の役割や機能、保育士の業務について知り、子どもへの支援の実践を体験し、ふりかえる。					50			50			
子どもとあそび	演習		2	3	4	前期	2	子どもの遊び 実践と指導法	子どもにとって遊びは、どのような意味があるのか。保育専門職は、子どもたちの遊びをどのように理解する必要があるのか、具体的な遊びを知り、実際に模擬保育を行い、遊びの意味と効果を考察する。	さまざまなジャンルの子どもの遊びを経験しながら、自分なりに理解し、遊びのリーダーの技量を身につける			50		50					
子どもの健康と安全	演習		2	3	4	後期	2	子どもの健康と安全についての理解	保健的観点を踏まえ、保育環境や子どもの体調不良等に対する適切な援助について理解する。関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理、事故防止、感染症対策、安全対策・危機管理・災害対策について理解し、発達や状態等に即した適切な対応を行う。健康と安全に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について理解する。	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。	50	50								
専門英語	演習		2	3	4	後期	2	多文化理解と英語力	外国にルーツを持つ子どもたちへの理解、多文化理解を深めるとともに、保育現場で活用できる語学力を修得する。	保育士自身が英語での保育に自信を持ち、部分保育を楽しめるようにする。					50			50		
こども家庭支援の心理学	講義		2	3	4	後期	2	子どもの発達の観点からの理解	乳児期から老年期に至る生涯発達の知見を得て、家族、家庭、親子関係や家族関係等について発達の観点から学ぶ。子どもとその家庭を包括的に捉え、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。また、子どもの成長環境、精神保健とその課題について理解する。	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。	50	50								
実習指導・施設1	演習		2	3	4	後期	2	施設実習に向けた事前学習	居住型の児童福祉施設等での実習を前に、施設の理解や利用児者の理解を深める。	施設保育士の専門性と役割について学ぶ。	50	50								
施設実習1	演習		2	3	4	後期集中	2	居住型児童福祉施設等における実習	居住型児童福祉施設等での実習を通して、子どもへの理解を深め、居住型児童福祉施設等の機能と保育士の職務、役割について学ぶ。	1 居住型児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。	50	50								

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力			
						必修	選択													
社会福祉	講義		3	4	前期		2	保育士になるために必要な社会福祉論	現代社会における社会福祉の意義、理念について学ぶ。また社会福祉に関する法制度や福祉サービス、社会福祉援助の実際について学ぶ。そして、社会福祉専門職者である保育士に必要な知識の習得を目標とする。障害当事者及び福祉現場の担当者によるゲストの講義の実施、講義内容に応じて視聴覚教材等を使用する。	保育士になるために必要な社会福祉の基本的な事項、動向等を理解し、知識を取得する。	50	50								
保育内容V(表現I)	演習		3	4	前期		2	感じる・考える・表現する	幼児たちの表現を受け止め理解を深めるため、自然や身のまわりの日用品から、素材集め体験やさまざまな表現活動を行う。毎回、キーワードを設定し、表現について多面的に考察する。また、合評では相互批評から、多様な見方、感じ方に触れ、表現を伝え合うことの大切さを学ぶ。	自らが五感を使って身のまわりの美しさに気づき、創造的に表現することの楽しさを体験する。子どもの表現を受け止め、理解し、表現の意欲を育てる指導法のあり方について知識を深める。お互いの表現したものを伝え合うことの意義と大切さを学ぶ。	50	50								
保育内容VI(表現II)	演習		3	4	前期		2	音(楽)あそび・音楽を使った身体表現・子どもの歌唱指導法	季節・機会・子どもの発達段階に応じた歌唱・手あそびを習得する。また人前であそぶことや身体表現をすることに慣れるとともに、音(楽)あそびや子どもに対する歌唱指導法の実践力を習得する。	音(楽)あそびや歌唱指導の実践を通して、子どもの豊かな感性や表現能力を伸ばすことのできる力を養成する。	50	50								
こども家庭支援論	講義		3	4	後期		2	子育て家庭に対する支援の意義・目的	保育士の専門性を活かした、子育て家庭に対する支援の意義、目的、具体的な支援体制や社会資源とその活用について理解する。また、今日の子育て家庭の現状や地域のニーズを知り、関係機関との連携を含めた多様な支援の展開と今後の課題について理解する。	1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。	50	50								
こどもと生活	講義		3	4	後期		2	生活科の背景と低学年の子どもの特性についての理解	生活科の教育原理を国内外の実践事例とともに学び、グループを編成し、単元及び本時の指導計画の作成、教材研究・模擬授業等を実施する。最終的に現場教員に求められる生活科の授業実践の力量を身につけることができるようにする。	生活科の背景と低学年の子どもの特性について理解し関心をもつこと、そして生活科の年間指導計画と単元指導計画を作成できるようになることを目的とする。	50	50								
こども芸術演習I	演習		3	4	前期		4	子どもの「学び」と「遊び」をデザインする	1-2回生の造形授業で学んだ導入、素材研究、発想・構想、制作・発表までの一連のプロセスを再度段階を踏みながら体験し、これまでよりも長い期間でのマネージメントを学ぶ。また、展覧会の会場構成や広報、設営・準備などを新たに学んでいく。	・子どもの「学び」と「遊び」をデザインする実践力を高める。 ・造形活動にかかる時間配分や、仕事量見極めなどの実践的なマネージメント能力を養う。	0	0	20	80	20	80	20	80	20	80
こども芸術演習II	演習		3	4	後期		4	子どもの「学び」と「遊び」をデザインする	「保育・幼児教育」「こども」「ワークショップ」「デザイン」「芸術」「発達・心理」などを切り口とし、自らの研究テーマを決定する。各々の気づきのプロセスを大切にしながら、主体的な実践・研究を進める。	・実際に保育・教育に関する調査研究をおこない、発表から実施までの一連の流れを知ることができる。 ・自主的な学習態度を形成し、保育・教育実践に関する課題を自ら発見し、解決していける能力を身につけることができる。	0	0	20	80	20	80	20	80	20	80
教育相談	講義		3	4	前期		2	教育相談の基本的知識、技術を学ぶとともに、幼稚園教諭・保育士としての職業的倫理観を養う	まず、自己を知る作業を行い、次に相談業務に関する基本姿勢を学ぶ。教育、保育、福祉等の現場において生徒、保護者等どのようにラポールを形成するか、いかに環境調整等を行い、生徒や保護者等の自己実現にむけて支援するかについて演習(参加型学習、ロールプレイ、報告等)を行い、理解を深める。	1 教育相談の意義と原則について理解する。 2 保護者支援の基本的姿勢について理解する。 3 教育・保育現場における相談内容の事例分析を通して対象への理解を深める。	50	50								
子育て支援	演習		3	4	後期		2	子育て支援内容の方法及び技術	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、援助、情報提供等の具体的な支援を学ぶ。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援内容と方法及び技術について、具体的な実践事例等を通して理解する。	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。	50	50								
実習指導・保育所I	演習		3	4	前期		2	こどもと向き合う保育実践とは	保育所実習に向けて実習生として必要な知識を学ぶ。(保育所10日間)。保育所実習計画を立て、乳幼児の実際の姿を想定して一人ずつ模擬保育を行なう。保育実習Iは学内で習得した総ての授業を生かして保育所や施設において保育の実際を学ぶ場である。日々の努力を重ねる中で、自分らしさを見つめながら、そして自分らしさを認め合いながら、謙虚な気持ちで実習に入ることが望まれる。こうした気持ちは必ず子どもたちの心と響きあう根源となると考えられる。本講義では、楽しく子どもと向き合い、「保育とは?」「こどもと向き合うことは、子どもの人格にどのような影響を与えていくのだろうか」などを考え、学んでいくことを大切にしていきたい。	保育指導案を立てて、こどもの前で実践的に保育が出来るように学習、研究をする。	40	80	0	0	30	60	0	0	30	60
保育所実習I	演習		3	4	夏期集中		2	保育の実際と子ども理解	保育所の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。	0	0	0	0	30	60	30	60	40	80
実習指導・保育所II	演習		3	4	後期		2	保育所における保育士に求められる資質・スキル・技術とは何か	保育実習Iや既習教科を土台とし、保育園所の役割や機能について具体的に理解を深め実践力を養う。特に保育の計画、観察、記録及び自己評価等について取り組み、自己の保育の改善について実践的かつ具体的に学ぶ。これらの点を踏まえ、保育士としての自己の課題を明確化したり、保育士の専門性や職業倫理について理解する。	実際に年齢や発達段階に応じた保育指導案を作成し、保育士として必要な資質・能力・技術を取得する。また家庭と地域の生活実態を知ること、子どもや家庭のニーズに対する理解力や判断力を養うとともに、子育て支援に必要なスキルを養うことを目標とする。	0	0	40	80	0	0	30	60	30	60
保育所実習II	演習		3	4	後期集中		2	地域社会における保育所の役割と子育て支援	保育所実習を通して、広い意味で地域における保育所の役割や、子育て支援について関心を持って過す。また、保育課程、保育指導計画の理解の上で、1日の保育指導計画立案を作成し、計画とあわせて実践的に保育の方法を学ぶ。自己評価、反省は必ず行ない、その上立って、保育の再構築をする。	こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から保育課題を明らかにする。同時に保育所の社会的役割について積極的に考察を深める。	0	0	0	0	40	80	30	60	30	60
実習指導・施設II	演習		3	4	後期		2	施設実習に向けた事前学習	児童福祉施設等での実習を前に、施設の理解や利用者への理解を深める。	施設保育士の専門性と役割について学ぶ。	0	30	60	0	0	20	40	50	100	
施設実習II	演習		3	4	後期集中		2	児童福祉施設等における実習	児童福祉施設等での実習を通して、利用者や家族への理解について学びを深め、児童福祉施設等の機能と保育士の職務、役割について学ぶと共に体験的に利用者のかかわりを深め実践力を身につける。	1 施設実習を体験することで、利用者への理解を深め、実践的に学びを深める。 2 対人援助職の倫理と専門性を学ぶ。	0	0	0	0	30	60	20	40	50	100
教育実習指導	講義		3	4	後期		2	幼稚園実習の意義や目的、そして必要性を学び、そのプロセスを大切に準備する。	・幼稚園現場において実際に携わることにあたって、責任ある立場で子どもと接すると教員とはどう違うのか学ぶ。 ・実習に必要な知識や技術を学び、実際に実習でその学びを発揮できるように準備する。 ・それぞれが実習に対する学習課題を明確化する。 ・実習経験をふまえ、今後の学習及び制作への意識を高める。	幼稚園実習で十分な成果を納められるように、学びのプロセスを大切に準備する。また実習の終了後には、それぞれが現場で経験し学んだことを整理し、全員で確認することで今後の学びや制作につなげていく。	0	20	40	0	0	20	40	60	120	

科目名	授業種別	履修学年・学期				単位		テーマ	授業概要	到達目標	探究力	思考力	発想・構想力	表現力	行動力	継続力	コミュニケーション力
						必修	選択										
教育実習I	演習		3	4	後期集中		2	幼稚園での保育の実際と子ども理解	幼稚園の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。	0	0	0	0	50 ₁₀₀	20 ₄₀	30 ₆₀
教育実習II	演習			4	前期集中		2	幼稚園での保育の実際と子ども理解	幼稚園の1日のデイリープログラムを理解して、子ども理解を深め、保育方法を学ぶと共に、保育指導立案と実践の関係を理解し実践の場の楽しさを知る。	体験的に保育実践を学び、こどもの気持ち理解や保育の計画、反省、評価から次の保育課題を見つける。	0	0	0	0	50 ₁₀₀	20 ₄₀	30 ₆₀
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習			4	後期		2	教員としての能力、学級経営を円滑に進める力を養う	教職課程の学びや学校現場での体験や実習を振り返りながら、教員になる上での自己の課題を明確にする。また、本演習を通して教員として実践力と指導力を高める。	①教員としての高い倫理観と規範意識を習得する。 ②教員としての職責や義務の自覚に基づき、高い社会性や対人関係能力を身に付ける。 ③子どもの発達や心身の状況を理解し、学級経営を円滑に進める力を身に付ける。 ④教科に関する指導力を身に付ける。	30 ₆₀	20 ₄₀	0	0	20 ₄₀	30 ₆₀	
こども芸術演習III	演習			4	前期		4	卒業研究・制作に向けて各自のテーマを設定し、実践・研究を行う	各自のテーマを設定し、主体的な実践と研究を行う。また、卒業制作展覧会に向けたグループワークにも、同時並行して取り組む。	・自己の目標に向かって研究・制作する向上心と持久力を身につける。 ・自分らしい専門性を身につけ、社会で活躍する実践的な能力を身につける。	0	0	50 ₂₀₀	0	50 ₂₀₀	0	
卒業研究・制作	演習			4	後期	4	4	卒業研究・制作に向けて各自のテーマを設定し、実践・研究を行う	各自のテーマを設定し、主体的な実践と研究を行う。また、卒業制作展覧会に向けたグループワークにも、同時並行して取り組む。	・自己の目標に向かって研究・制作する向上心と持久力を身につける。 ・自分らしい専門性を身につけ、社会で活躍する実践的な能力を身につける。	0	0	50 ₀	50 ₀	0	0	

合計	41	93
----	----	----

ポイント計	740	1260	1310	1000	920	1070	1500
比率	9.5%	16.2%	16.8%	12.8%	11.8%	13.7%	19.2%